

創傷 処置

旧：患者の創傷の観察ができる

新：創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）

今回項目名が「観察ができる」から「創傷処置」へと変わり、実質的な到達レベルが大きく上がったこの項目。実習中に学修の機会が得られない場合を考えると、演習で学生が手技を実践し、学修しておくことが必要とされます。

MW63

褥瘡シミュレータ

ステージの異なる計6種類の創部と、付属の創部再現キットで創傷処置をトレーニング。褥瘡のできやすい位置・位置ごとの形状を忠実に再現しています。高齢者を模したボディは、体位変換やおむつの当て方の確認など、褥瘡予防ケアの学修にもお使いいただけます。



特集2

物品担当者
が
押さえておきたい

旧：IV 知識として分かる

新：II モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる

項目名は「ストーマを増設した患者の一般的な生活上の留意点を知る」から「ストーマ管理」へ。到達目標も2段階上がりました。近年ではストーマ人口の増加やストーマ造設術式の変化によるケアの難化で、入職前に基本の手技を実践しておくことが求められています。



ストーマ 管理

ストーマケアシミュレータ

着脱可能なストーマを4ヶ所から任意の位置に取り付けて、ストーマ管理のトレーニング。学生同士で装着して排泄物の処理や器具の交換など一連のトレーニングを行うことで、手技だけでなく患者さんに配慮したケアを学修することができます。



今年度より看護専修学校に向けた看護基礎教育の新カリキュラムが適用されます。大きな変更点として、今回から手技の卒業時の到達目標が実習と演習で分けられました。また一部の項目では、これまで知識として知っていれば良いとされていた項目が、手技の実施に変更されるなど、到達目標が引き上げられています。そこで今回は、学内演習の到達度が上がったor追加された文言から4項目をピックアップ。オスズメのシミュレータと併せてご紹介します。

旧：IV 知識として分かる

新：Iモデル人形もしくは学生間で単独で実施できる

項目名は「基本的な排便の方法・実施上の留意点がかかる」から「排便」に。到達目標も3段階上がって「Iモデル人形もしくは学生間で単独で実施できる」に変更になりました。今回最も大きな変化があった項目の1つです。

MW25

万能型看護実習シミュレータ “八重”

排便トレーニング用のリアルな質感の排便用ユニットを付属。全身モデルならではの、羞恥心に配慮した体位を含めた総合的な排便トレーニングが可能です。硬さの異なる2種類の便で、それぞれに対応した排便の技術を学修することができます。



軟便



硬便



排便

新カリ 変更ポイント

	卒業時の到達目標	
	演習	実習
	I	III
	∴	

学内演習で到達すべき目標が明記されたからこそ、各手技を確実に授業で実施できるよう準備したいところです。



臨床判断能力の基盤となる演習を強化する内容とする。

専門基礎分野 留意点より

今回のカリキュラム改正で1単位増となった臨床判断能力の育成。カリキュラム編成ガイドラインでは、「臨床判断の基礎的能力とは、解剖生理学・病理学・薬理学などの医学的な知識を看護に活用する能力」とあり、各養成所でどのようにカリキュラムを組み、能力の育成に繋げるのかがポイントになっています。

MW27

多職種連携シミュレータ SCENARIO

様々なシチュエーションに対応した31種の監修シナリオを搭載。知識を看護に活かすための臨床判断トレーニングをサポートします。シナリオ毎に設定された学修目標を確認したら、刻一刻と変化するモデルの容態を観察しながら看護を実践。トレーニング後はガイドに沿ってデブリーフィングを行い学びを深めていきます。

臨床判断能力

